

私達は改めて、2つのリスクについて考えなくてはならない時期に来ているのだろうと思っている。1つは、新型コロナの感染リスク。リスクを語る上で、これに関しては異論はないだろう。その為に、マスク、手洗い、手のアルコール消毒やうがい等、日常当たり前に続けていることもあれば、出掛ける、帰省する、人と会う、筆者の周囲の話としては、演劇に係わる、などの行動抑制を行っている人もいる。行きたくても行けない、旅行、地方公演。そして、また、目には見えない場合も多いが、感染する可能性のプレッシャーによって、純粹に精神的なリスクを負っている人もいる。

しかし、それと同時に、感染予防を原因に行動抑制を行ってきたリスク、というものにも目を向けなければならないと考えている。今がそういう時期だ。今、この状況がもう2年近い。真面目でキチンとした人ほど、感染予防を徹底する意味で、大きく行動を制限してきた。自分が感染することの恐怖もあるにはあるだろうが、たぶん、自分を介して誰かを感染させてしまう恐怖も重なり、2年前までの生活に比べて強く自分を律してきた人も少なからずいる。それは、社会の側からすれば誉められたことであり、感謝に価すると思う。でも、改めて、そのことで自分が負っているリスクにも、ちゃんと目を向けるべきだと考えている。

経済的な損失を負っている人にはもちろんだが、精神的な、我慢などによるダメージにも、それこそキチンと、1つの深刻な問題として意識を向けて欲しい。平気、平気、と口では言える場合でも、例えばこれが後2年続いたら、とか、もしかして一生こんなことが続くとしたら、とか、負の蓄積にも想像力を働かせて、ダメージのイメージを持っておきたい。もう2年も続いているコロナ禍。2年だってさ。まさか2年も続くとは思っていなかった人も多いはずだ。今頃はコロナ以前の生活に戻っていると考えていた人もいるだろう。今、改めて、「禍」というこの漢字の意味を考えてみる。平気、平気。本当に？ 本当だろうか？ 時々、自分に問いただしてみたらどうだろうか。このことを軽視してはいけない。戦い方を変える必要があるなら、面倒くさがらず、1回再考してみたい。自分を大切にすることで頑張ってきた何かが、時には重荷にもなり得ることも知っていたい。

戦い方を変える必要があるなら、考えよう、変えよう。

このことは、経済の専門家が指摘する、感染防止策を強化する余り、経済に与えるダメージを軽視すると、被害はより大きくなる話と似ている。コロナ禍を生きるということは、長い平均台の道を歩き続けることだ。どっちにバランスを崩しても、落ちてしまう中で、丁寧に歩を進めなくてはならない世界に、僕らの社会はずっと突入している。最初から比べると平均台は細くなってないだろうか。どっちにバランスを崩してもダメ、この平均台の世界で、改めて2つのリスクについて考えてみたい。

自分で自分が、自分に対してだけでいいので、誇れるようでありたいと思う。それがちょっと強迫観念にもなっていて、そうでないとそれこそ自分の心が揺らいでしまう場合もある。また、演劇をやっているのも、他者の視線、周囲の価値観に敏感ではあるつもりだ。他人からどう見えるか、どう思われるのか、いつだって内心ビクビクしているのはウソではない。私だけでなく、そのような人も多くいるだろう。しかし、そのような自分の性質に、時には自分自身が助けられてきた側面も忘れない。目立たない空気のような存在感になることと引き換えに、自分を含め誰からも嫌われることもないと、振り返ることが出来る。。そして、そんな自分は嫌いではないかも、とも付け加えておく。でも、それでも、上記してきた「そのこと」のリスクに目を向けないのは、怠惰でしかないのではないかと。一度俯瞰してものを見て、常にいつでも何度でも問い直すこと、正しさに対してさえそれを行う意味は、自分の人生において確かにあると私は思う。新型コロナは分かりやすく正しさを浮き彫りにしてきた。社会でも、個人の中でも。しかし、正しさが最高位の価値観ではないのだと、改め

て気づかせてもくれたのがコロナだ。正しさなんて、概ね上位にはいるが、それだけの価値観に過ぎない。いや、上位だから大切であるけど、一位ではないのだと。だから、確かに、自分で自分が、自分に対してだけでいいので、誇れるようでありたいとは思うけれど、それだけで行動を決めることには、それはやっぱり怠惰だと考えている。それでは、思考停止していないか？ 実は自分で自分を傷つけていないか？ 面倒くさがらずに、何度でも問い直す意味はあると思っている。例えば、自らの野心や欲望や夢と、どう折り合いをつけるのか、考え続ける「知」を持ち続けて行きたい。他人の目を気にして、自分の中にあるものを軽視はしない。

例えば、自らの野心や欲望や夢と、どう折り合いをつけるのか。

なんて、ね、色々悩む時に、そんな考え方も参考になったりしないだろうか？ 試しにこんなことを書いてみました。正しさを無批判に執行し続けることが、ただの怠惰だってさ。ひゃー、筆者も書いていて初めて気づいたよ。正しさよりも大切なものって何か、丁寧に考えて行かなくてはねえ。今、改めて、2つのリスクについて。だって平均台は続く。続いて行くのだから。

無暗に閉じ籠ったりしないで、思考せよ、自分。何もかも、そこから。

2022年1月、長堀博士、記